

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472400266		
法人名	社会福祉法人紀心会		
事業所名	グループホームメサイア ユニット名イースト		
所在地	宮城県亶理郡山元町山寺字堤山8-3		
自己評価作成日	令和4年2月5日	評価結果市町村受理日	

#### ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年3月7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「すべての行動には意味がある」「プライバシーの保護と尊厳の確保に努める」「焦らず、急がず、共に過ごす時間を大切にする」という考えのもと利用者様ひとりひとりが生活の中で役割や生きがいを持ち、自己決定を可能にしたその人らしい生活を送って頂けるようチームケアで実践している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道6号から西側、町役場も近い木々に囲まれた丘の上に位置し、津波や風水害の影響を受けにくい所に建てられている。山元町内の平田外科病院が運営母体で、2022年9月で20年目を迎える。同じ敷地内に同法人のケアハウス、訪問介護事業所、関連施設の介護老人保健施設、居宅介護支援事業所があり、研修や防災訓練など連携体制がある。ホーム理念「入居者様の言葉に耳を傾け、その思いを受け入れていく…」「入居者様が地域との関わりを閉ざされぬよう…」を掲げている。日々の関わりの中で利用者の思いに耳を傾け、意向をくみ取るよう努め、散歩やスーパーへの買い物、ミニドライブを企画するなど、日常的なケアに組み込んで希望を叶えるよう努めている。山元町で唯一のグループホームであり、町の介護課や地域包括支援センターと連携を図り利用者を受け入れたり、生活保護を活用したりしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームメサイア）「イースト」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員も増え理念の共有し方向性を共にシケアに挑んでいる	「入居者様の言葉に耳を傾け、その思いを受け入れていく…」 「入居者様が地域との関わりを閉ざされぬよう…」をホーム理念として掲げ、常に意識できるよう、事務所やリビングに掲示シケアに活かすよう努めている。新任職員に理念と認知症ついて研修を実施し、介護職員としての姿勢を教示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により閉鎖的な環境での生活となっている	コロナ禍前は近隣の2つの町内会の区長が運営推進会議に出席し、意見交換が行われていた。利用者は地元に住んでいた人も多く、町内の理・美容院に継続して通ったり、散歩時に近隣住民とあいさつを交わす関係ができていた。利用者が以前利用していた隣接するケアハウスとも交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により行えていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により行えていない	コロナ禍で開催できていない、以前は役場福祉課職員、地域包括職員、区長、民生委員、家族、ホーム職員が参加し開催していた。役場職員からは運営推進会議の進め方の助言を得ていた。区長からは小学校の運動会への見学の誘いや、避難訓練時には地域住民への参加協力の呼び掛けや消防団へ声掛けをしてもらうなど、協力体制ができていた。コロナ禍での開催方法や代替えについて検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町からの紹介入居者には対応し入所に至るまで連携している	町（生活保護課、介護課）、地域包括支援センターと情報共有を図り、連携体制ができていた。役場職員が運営推進会議に参加しており助言を受けている。利用者のコロナワクチン接種は優先的に受けることができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束と捉えられる行為は慎重に行っている。玄関の施錠は職員の人員配置や夜間帯は行わざるを得ない	昨年より身束拘束についての研修会を行い理解を深めている。身体拘束委員会も4月から立ち上げた。外出要求が強い人には防犯上センサーを使用する時もあるが、常時にならないよう取組み、一緒に散歩に出掛けるなど身体拘束にならないよう努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が感情的になっている時、履き違えた意識により方向性を間違えているときはその都度指導している。	昨年より虐待防止の研修を開催している。今後グレーゾーンについても、具体的な事例を上げ、勉強会を行う予定にしている。ケアの場面ではその都度、気付いた時に指摘している。職員からは随時話を聞いたり、年2回、定期面談を行いストレスが溜まらないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人がついている方の受け入れはしている、連携などにスムーズに行かないときもあるが学びとなっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	感染対策もあり簡素化にはなっているが対面での契約、説明を行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは定期連絡の際に情報を共有し意見を聞き上司や他職員との連携をしている	介護計画の説明時にファミリー面談を行い、家族から意見を聞いている。また、利用者状況に変化があった場合、都度電話で報告しているが、その際も意見を聞くように努めている。コロナ禍で面会を一時中断していたが、利用者の思いを把握し感染予防を徹底し再開できるよう取組んだ。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者との面談の場を設け反映できることは実現できている	施設長が参加するメサイア会議において、職員から意見を聞き、事業運営に反映している。リビングの一角に職員も休憩できるよう畳敷きのコーナーを設け、段差をなくしたりカーテンで仕切れるようにしたり改善に繋げている。また年2回、面談を実施し、職員から意見を聞き運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境は適時 見直しがあったり無理なく就業できるような環境のため概ね満足出来ている様子		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を増やしたが、求めているテーマが違うこともあり。定着とはなっていない		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	各事業所より入居者を紹介してもらうことが多く情報交換又新規顧客の機会となっている	コロナ禍前は、山元町内の介護事業者が集まる、顔の見える関係づくりの勉強会に参加し、意見交換を行っていた。また、管理者が認知症実践者リーダー研修に参加し、そこで学んだことを積極的に運営や実践に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査で把握し担当職員が入居時点から対応を考え安心して入居を向かえらるようフォローしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居意思の確認の段階より様々な話を聴き入居にあたっての不安などがあれば対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の聞き取りの段階で本人に合っている施設かどうか見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に出来る事は可能な限り行っている(食事、洗濯、散歩)		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケア方法で迷ったときは家族と相談し本人に合った対応などを検討している		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策上難しい場合もあるが可能な限り行っている。	本人の生活歴について、家族や利用していた介護サービス事業所からも情報を収集し、把握に努めている。隣接のケアハウスから入居した人には、馴染みの関係が途切れないよう支援している。利用者はコンビニの移動販売を利用したり、行きつけの理・美容院を継続して利用している。家族との面会はコロナ禍で一時中止していたが、職員の「面会により利用者の表情が明るくなる」との意見から、感染予防対策を徹底して再開し喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合いの中でトラブルもあるようだが職員は基本干渉は控え入居者様同士のやりとりにまかせている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の今までの暮らしを考え聞き取りを元に支援している。	日々の関わりの中で、「入居者様の言葉に耳を傾け…」というホーム理念に基づき、ふとした会話やつぶやき、表情などから意向をくみ取り、把握に努めている。気付いた事はケース記録に記載し職員間で情報共有し、スーパーでの買い物や実家に帰りたい等の要望にも、職員が同行しすぐに対応できるよう取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの暮らしが大きく変わってしまわないよう環境作りに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員のペースに巻き込まないよう状態の把握に努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員だけでなくミーティングなどで他の職員の意見も取り入れ介護計画に取り入れている	介護計画は担当職員がアセスメントし、家族の意向も踏まえて作成している。介護支援専門員や主任のチェック後にケアプラン検討会を開催し、かかりつけ医からも意見を聞き完成させている。月々のモニタリングや評価は、担当職員が行い、これらについてケアカンファレンスで検討し、定期的に状態に変化があれば随時、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は簡素化を推進しているが必要な事項は詳細に分かるよう記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍により制限は大きかったが感染リスクを検討した上で外出 外泊等柔軟な対応をしてきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時より地域資源の活用をしていた方が望めば対応できるようにしていた		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族本人の希望で平田外科医院以外のかかりつけ医を希望する場合は体調不良時の対応がメサイアで出来ないため全面的な対応など家族に依頼している。	ホーム入居時に、協力医療機関へのかかりつけ医変更を依頼し、同意が得られた場合は、以前のかかりつけ医からの情報提供書により、医療連携が図れるようにしている。希望により、これまで受診していたかかりつけ医を継続する場合は、家族付き添いを依頼している。その際は、ホームから利用者の状態を記載した情報提供書を提出し、医師からは受診結果の返信を受け、情報共有が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は在籍していない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はまず退院後メサイアで対応できるか慎重に流れをみている。退院許可が出来れば即対応している。病院ケースワーカーとは適時情報交換を行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化は現段階では対応できないため家族と話し合い事業所内の施設への連携対応となっている。家族が希望する施設への移動も可能である	入居時に、ホームで看取りは行わないという法人の方針を説明している。協力医とは24時間連絡がとれ、相談や緊急時の対応など連携しながら取組んでいる。重度化した場合、介護計画を見直し、家族には状態変化について説明し、ホームでの介護が難しくなった場合は隣接する老人保健施設への入所を支援したり、協力病院である宮城病院等との連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが急変時の対応は新人職員には教育アドバイスをしている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員を配置し訓練を行い備蓄品なども兼ね備えている	避難訓練はケアハウスと合同で年2回開催し、うち1回は夜間想定で行い、職員同士が連携できるように努めている。緊急時は区長が消防団に連絡し、また、外に避難した利用者の見守りを地域住民に依頼するなど支援体制や連携が整えられている。非常時用に3日分の備蓄の他、ガスボンベやガス台、発電機などを備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折職員が感情的になってしまい言動に注意しなければいけない場合はあり ひと呼吸おいての声掛けが出来るよう指導している	コロナ禍前は法人で行う全体研修の際にプライバシーの保護や人権について学び、意識啓発を行っていた。利用者には尊敬の念をもち、「さん」付けで呼び、排泄時や入浴時の声掛けに特に留意するよう指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の性格認知度に合わせた対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	のんびり静かにすごしたい方が大半だが散歩や新聞購読の希望があれば対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアスタイルはご本人の希望もあるため家族に美容室に連れて行ってもらっている洋服はご自分で選べる方は任せている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染対策により職員が行っている	季節感を感じられる旬の食材を取り入れ、栄養面でも偏りが無いよう、職員が献立を作成し、調理も行っている。食形態は利用者の咀嚼、嚥下状態に合わせて提供している。随時、利用者の希望を献立に入れたり、誕生日にはケーキを準備し喜ばれている。職員も一緒に食事し、片付けやテーブル拭き等は利用者が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病上食事に配慮が必要な方は配慮している。好き嫌いにも対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は職員声掛け等により口腔ケアが行われている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	身体上の理由がない方はトイレ誘導を行い失禁防止に努めている。ただ過剰な声掛けはしていない(夜間)	排泄チェック表を活用し排泄間隔を把握し、利用者に合わせて、トイレ誘導やパッド交換を行っている。トイレ誘導を拒否する人には、時間を置いたり、工夫しながらプライバシーに配慮し対応している。便秘対策として、牛乳やヨーグルトを摂り入れたり、医師の処方薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤のコントロールが主だが水分は摂って頂くよう声掛けしている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は職員の都合での入浴ペースとなっているが毎日の希望がある方は対応出来るようにしている。	曜日や時間を決めず、一人でも多く入浴できるように、また土曜日は一日入浴出来る体制を整え支援している。利用者の要望に合わせて入浴ができるように努め、入浴剤なども使用し楽しく入れるよう取組んでいる。入浴を拒む人には、何故嫌がるか思いをくみ取り解決しながら、誘導の仕方も工夫し入浴できるよう取組んでいる。状態に合わせて足浴や清拭、車椅子を利用している人には職員2人体制でシャワー浴の援助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後休まれる方が多いが自立が高い方は本人まかせにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	血圧や下剤などは症状の把握のもと調整の相談を主治医におこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事は何よりの楽しみ時折おやつやメニューの工夫をして		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は希望のある方は付き添っている	日常的に利用者の要望に合わせ、散歩に出かけたり、買い物、美容室や床屋等への外出支援をしている。コロナ禍前は同法人の隣接しているデイサービスの送迎バスを利用し、花見などに出掛けていたが、現在は少人数でドライブを楽しんでいる。殆どの利用者が町内出身であり、馴染みの地域をドライブすることで、記憶喚起の機会となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布は持ち込みは原則制限していない移動販売で買い物したい方は支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応したい		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽は適切な利用にとどめている。台所での音は最小限になるようにし、大きな音を立ててしまった時はお詫びしている。	リビングには大きな掃き出し窓があり、そのまま外に続く屋根付きの大きなウッドデッキがある。天気の良い日には利用者がひなたぼっこをしたり、洗濯物干し場として活用している。コロナ禍で、温・湿度管理と共に、換気、消毒を定期的に行い、感染予防対策に努めている。また、観葉植物が置かれ、一角には畳コーナーが設けられており、緑を眺めたり畳で寛げるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過ごしたい場所で心地よく過ごせるよう支援している		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物の持ち込みをしておりレイアウトも本人の導線に合わせ転倒や事故がないよう適時変えるようにしている	居室にはエアコン、ベッド、三段チェスト、洗面台が備え付けられている。利用者は使い慣れたテレビやテーブル、イスなどを持ち込み、動線を確保して使いやすい配置にしている。ベッドからの転倒防止の観点から、畳を利用する利用者もいる。衣替えは家族が定期的に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるように定期的に居室やフロア内のレイアウトはチェックし転倒予防に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472400266		
法人名	社会福祉法人 紀心会		
事業所名	グループホーム メサイア ユニット名:ウエスト		
所在地	宮城県亶理郡山元町山寺字堤山8-3		
自己評価作成日	令和4年2月8日	評価結果市町村受理日	

#### ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年3月7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「全ての行動には意味がある」「プライバシーの保護と尊厳の確保に努める」「焦らず、急がず、共に過ごす時間を大切にする」という考えのもと、利用者様一人ひとりが生活の中で役割や生きがいを持ち、自己決定を可能にしたその人らしい生活を送って頂けるようチームケアで実践している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道6号から西側、町役場も近い木々に囲まれた丘の上に位置し、津波や風水害の影響を受けにくい所に建てられている。山元町内の平田外科病院が運営母体で、2022年9月で20年目を迎える。同じ敷地内に同法人のケアハウス、訪問介護事業所、関連施設の介護老人保健施設、居宅介護支援事業所があり、研修や防災訓練など連携体制がある。ホーム理念「入居者様の言葉に耳を傾け、その思いを受け入れていく…」「入居者様が地域との関わりを閉ざされぬよう…」を掲げている。日々の関わりの中で利用者の思いに耳を傾け、意向をくみ取るよう努め、散歩やスーパーへの買い物、ミニドライブを企画するなど、日常的なケアに組み込んで希望を叶えるよう努めている。山元町で唯一のグループホームであり、町の介護課や地域包括支援センターと連携を図り利用者を受け入れたら、生活保護を活用したりしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームメサイア）「ウエスト」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を頭で覚えるのではなく心に刻み理念を実践につなげている。ケアに迷ったときは道しるべとして理念を見つめ直すことも必要としており常に利用者にとって一番良い方向を選ぶようにしている。	「入居者様の言葉に耳を傾け、その思いを受け入れていく…」「入居者様が地域との関わりを閉ざされぬよう…」をホーム理念として掲げ、常に意識できるよう、事務所やリビングに掲示しケアに活かすよう努めている。新任職員に理念と認知症ついて研修を実施し、介護職員としての姿勢を教示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在もコロナ禍の影響で地域とのつきあいはできない状況になっている。	コロナ禍前は近隣の2つの町内会の区長が運営推進会議に出席し、意見交換が行われていた。利用者は地元に住んでいた人も多く、町内の理・美容院に継続して通ったり、散歩時に近隣住民とあいさつを交わす関係ができています。利用者が以前利用していた隣接するケアハウスとも交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護認定審査会には毎回出席している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議の定着化を目標としているがコロナ禍の影響により今年度も運営推進会議は実施できていない。	コロナ禍で開催できていない、以前は役場福祉課職員、地域包括職員、区長、民生委員、家族、ホーム職員が参加し開催していた。役場職員からは運営推進会議の進め方の助言を得ていた。区長からは小学校の運動会への見学の誘いや、避難訓練時には地域住民への参加協力の呼び掛けや消防団へ声掛けをしてもらうなど、協力体制ができていた。コロナ禍での開催方法や代替えについて検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	居室の待機状況や空き状況の報告、入居申し込みの案内の支援をしてくださっている。	町（生活保護課、介護課）、地域包括支援センターと情報共有を図り、連携体制ができています。役場職員が運営推進会議に参加しており助言を受けている。利用者のコロナワクチン接種は優先的に受けることができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯対策のため夜間帯のみ施錠しているが日中は自由に外出して頂いている。安全面からやむを得ない場合、センサーやモニターなどを実施する事前に家族の同意を得て一時的なことから継続的にならないように努めている。また事業所内で身体拘束の勉強会を実施している。	昨年より身束拘束についての研修会を行い理解を深めている。身体拘束委員会も4月から立ち上げた。外出要求が強い人には防犯上センサーを使用する時もあるが、常時にならないよう取組み、一緒に散歩に出掛けるなど身体拘束にならないよう努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事例はないが虐待だけではなくグレーゾーンにあたるケアについても学ぶことが必要である。	昨年より虐待防止の研修を開催している。今後グレーゾーンについても、具体的な事例を上げ、勉強会を行う予定にしている。ケアの場面ではその都度、気付いた時に指摘している。職員からは随時話を聞いたり、年2回、定期面談を行いストレスが溜まらないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際利用している利用者はいないがポスターなどを掲示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談、申し込みを受け契約を結ぶときまでには実態調査、管理者との面談を通して説明し利用していただくことになっている。解約に関しても相談を受けるなど実施している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望や意見などに対する訴えには十分に対応している。また外部の苦情相談を窓口にはポスターを掲示している。	介護計画の説明時にファミリー面談を行い、家族から意見を聞いている。また、利用者状況に変化があった場合、都度電話で報告しているが、その際も意見を聞くように努めている。コロナ禍で面会を一時中断していたが、利用者の思いを把握し感染予防を徹底し再開できるよう取組んだ。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行われるメサイア会議では理事長、管理者、各ユニットのリーダーが出席し運営に関する報告と意見交換を行っている。	施設長が参加するメサイア会議において、職員から意見を聞き、事業運営に反映している。リビングの一角に職員も休憩できるよう畳敷きのコーナーを設け、段差をなくしたりカーテンで仕切れるようにしたり改善に繋がっている。また年2回、面談を実施し、職員から意見を聞き運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の改定だけではなく求人掲載についても見直しを行った。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では定期的に認知症についての勉強会を実施している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度は管理者が認知症実践者リーダー研修に参加し更なるケアの質の向上に取り組んでいる。	コロナ禍前は、山元町内の介護事業者が集まる、顔の見える関係づくりの勉強会に参加し、意見交換を行っていた。また、管理者が認知症実践者リーダー研修に参加し、そこで学んだことを積極的に運営や実践に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず実態調査を行い利用される方のバックグラウンドや本人の困っていること、希望することなどの情報をできる限り多く把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談を受け実態調査、入居の説明、契約の取り交わしなどを通じて話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時にはケアマネージャーに相談することや敷地内にある老人保健施設などを紹介するなど各々のサービスがあることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは常に利用者と一緒に過ごしているが監視的、管理的にならず必要以外は手をかけず本人のライフスタイルを見守る体制でスタッフが存在するように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に1度の家族面談や面会時には近況報告とケアプランの内容などをお話しており本人の現状を把握していただいている。また家族の存在の重要性を理解していただいている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を強化したうえで面会を再開している。短時間ではあるが面会を喜ばれている。また携帯電話をお持ちの方は家族や知人と電話での話を楽しまれている。	本人の生活歴について、家族や利用していた介護サービス事業所からも情報を収集し、把握に努めている。隣接のケアハウスから入居した人には、馴染みの関係が途切れないよう支援している。利用者はコンビニの移動販売を利用したり、行きつけの理・美容院を継続して利用している。家族との面会はコロナ禍で一時中止していたが、職員の「面会により利用者の表情が明るくなる」との意見から、感染予防対策を徹底して再開し喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士居室へ誘ったり洗濯物をたたむときなどお互い声を掛け合っている。また利用者同士買い物を楽しむ姿もみられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後であっても相談や情報の提供、アドバイスをするように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位になるようにバックグラウンドを十分に把握し不明な点は家族から聞き対応に活かしている。	日々の関わりの中で、「入居者様の言葉に耳を傾け…」というホーム理念に基づき、ふとした会話やつぶやき、表情などから意向をくみ取り、把握に努めている。気付いた事はケース記録に記載し職員間で情報共有し、スーパーでの買い物や実家に帰りたい等の要望にも、職員が同行しすぐに対応できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の時や入居後本人から色々な機会にお話を聞くことができています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤、夜勤の申し送りを実施することで一人ひとりの心身の状態を把握し注意しなければならないことやケアポイントを中心に対応している。また、医師への医療的相談、定時報告も行っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ANY会議、メサイア会議、ケアプラン検討会、家族面談を通じて家族、医師、管理者、スタッフなどの意見を集めケアプランを作成している。	介護計画は担当職員がアセスメントし、家族の意向も踏まえて作成している。介護支援専門員や主任のチェック後にケアプラン検討会を開催し、かかりつけ医からも意見を聞き完成させている。月々のモニタリングや評価は、担当職員が行い、これらについてケアカンファレンスで検討し、定期的に状態に変化があれば随時、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日中、夜間と色分けに書いているほか連絡ノートを活用し申し送り事項や気づきなどを記入しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な通院は家族にお願いしている。緊急時の受診などスタッフが付添いをすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練は定期的に消防署の指導を受けている。また関連医療機関とは迅速でスムーズな連携が確立されている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者は平田外科をかかりつけ医としているが本人が希望する病院に受診できる支援もっており、その際は情報提供書を作成している。また医師とは24時間連絡をとれる状況にあり迅速な対応をしている。	ホーム入居時に、協力医療機関へのかかりつけ医変更を依頼し、同意が得られた場合は、以前のかかりつけ医からの情報提供書により、医療連携が図れるようにしている。希望により、これまで受診していたかかりつけ医を継続する場合は、家族付き添いを依頼している。その際は、ホームから利用者の状態を記載した情報提供書を提出し、医師からは受診結果の返信を受け、情報共有が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医である平田外科の看護師は協力的で相談しやすい。また緊急時には敷地内の老人保健施設より看護師が駆けつけられる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	治療が終了した時点で退院の指示があるので実態調査を行い入居が可能と判断できればすぐに退院の方向へ進める。退院後は看護サマリーなどに目を通し不明な点は実態調査の時などに聞くようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときに家族に今後の方向性について話し合いをする。また重度化すると医療面でのケアが必要になってくる場合があるのでかかりつけ医とはより協力体制を整えている。	入居時に、ホームで看取りは行わないという法人の方針を説明している。協力医とは24時間連絡がとれ、相談や緊急時の対応など連携しながら取り組んでいる。重度化した場合、介護計画を見直し、家族には状態変化について説明し、ホームでの介護が難しくなった場合は隣接する老人保健施設への入所を支援したり、協力病院である宮城病院等との連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急は消防署の指導を受けている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し非常食の食料や水分、灯油や乾電池、ガス、一人一人の内服薬の備蓄の管理を行っている。避難訓練では区長をはじめ消防団の方たちが応援に駆けつけてくださることになっている。	避難訓練はケアハウスと合同で年2回開催し、うち1回は夜間想定で行い、職員同士が連携できるように努めている。緊急時は区長が消防団に連絡し、また、外に避難した利用者の見守りを地域住民に依頼するなど支援体制や連携が整えられている。非常時用に3日分の備蓄の他、ガスボンベやガス台、発電機などを備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に声をかけるときは敬語で声のトーン、目線、相手との距離に気をつけて話している。又利用者の前で記録をとらないほかスタッフ同士が現場で利用者の話をしないように心がけている。	コロナ禍前は法人で行う全体研修の際にプライバシーの保護や人権について学び、意識啓発を行っていた。利用者には尊敬の念をもち、「さん」付けで呼び、排泄時や入浴時の声掛けに特に留意するよう指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必要以外の声掛けや介助は控えるようにし自分で考え行動することを可能な限り尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ本人のペースで希望に沿っての支援、スタッフのニーズではなく利用者のニーズに合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性利用者は毎日髭剃りを支援し、女性利用者ではご自身で化粧されている方もおられる。また行きつけの理美容室に行かれる方もおられる。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞き、季節感、旬を心がけながらスタッフが作成する。お正月のおせちやひな祭りをはじめとする行事食は豪華にする工夫をしている。	季節感を感じられる旬の食材を取り入れ、栄養面でも偏りがないう、職員が献立を作成し、調理も行っている。食形態は利用者の咀嚼、嚥下状態に合わせて提供している。随時、利用者の希望を献立に入れたり、誕生日にはケーキを準備し喜ばれている。職員も一緒に食事し、片付けやテーブル拭き等は利用者が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎朝パンを習慣としている方にはパンを提供している。また本人の状態に合わせた食事形態で提供している。梅干しや大根おろしを希望する方はその都度提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前に介助を要する方には口腔ケアをしており清潔保持や誤嚥性の肺炎防止にも努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介助を要する方でも尿意・便意を感じトイレに行っておられる。また排泄のサインを見逃さないようにトイレへ案内することで排泄の失敗を軽減できている。	排泄チェック表を活用し排泄間隔を把握し、利用者に合わせて、トイレ誘導やパッド交換を行っている。トイレ誘導を拒否する人には、時間を置いたり、工夫しながらプライバシーに配慮し対応している。便秘対策として、牛乳やヨーグルトを摂り入れたり、医師の処方薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のおやつにはヨーグルトを提供している。また腹部のマッサージ、朝食後のトイレ案内を行っている。医師に相談し本人に合った下剤の提供をしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日実施しており本人が入りたい時間帯、お湯の温度に合わせて入浴している。月に2、3回午前から入浴できる機会を設けている。	曜日や時間を決めず、一人でも多く入浴できるように、また土曜日は一日入浴出来る体制を整え支援している。利用者の要望に合わせて入浴ができるように努め、入浴剤なども使用し楽しく入れるよう取り組んでいる。入浴を拒む人には、何故嫌がるか思いをくみ取り解決しながら、誘導の仕方も工夫し入浴できるよう取り組んでいる。状態に合わせて足浴や清拭、車椅子を利用している人には職員2人体制でシャワー浴の援助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後臥床を好まれる方には午睡を習慣としているほか体調によって臥床を好まれる方にはその都度休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より毎回薬の効能がついているので理解している。症状の変化により薬の内容の変更を医師に相談することもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日散歩を日課としている方、買い物を楽しみにしている方など支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課している方には散歩を付添うほか気分転換も兼ねてドライブに行くことや初詣、桜見ドライブ、紅葉ドライブなどの行事も楽しまれている。	日常的に利用者の要望に合わせ、散歩に出かけたり、買い物、美容室や床屋等への外出支援をしている。コロナ禍前は同法人の隣接しているデイサービスの送迎バスを利用し、花見などに出掛けていたが、現在は少人数でドライブを楽しんでいる。殆どの利用者が町内出身であり、馴染みの地域をドライブすることで、記憶喚起の機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をご自身の財布で管理している方もおられる。本人の希望に沿って買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の手紙は直接本人に渡して見ていただいている。またご自身の携帯電話で家族や知人とお話されている方もおられる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンやヒーター、サーキュレーター、扇風機、加湿器、除湿機、空気清浄機や自然の風を上手に使い分け温度計、湿度計を複数の場所に設置するなどの環境設定を行っている。また行事や季節に合ったものを飾っている。	リビングには大きな掃き出し窓があり、そのまま外に続く屋根付きの大きなウッドデッキがある。天気の良い日には利用者がひなたっぼこをしたり、洗濯物干し場として活用している。コロナ禍で、温・湿度管理と共に、換気、消毒を定期的に行い、感染予防対策に努めている。また、観葉植物が置かれ、一角には畳コーナーが設けられており、緑を眺めたり畳で寛げるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ワンフロアを家具で仕切り食事をする所とテレビを見たり洗濯物をたたんだり、レクリエーションをする所と分けて使用している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたテレビや家具などを持ち込み自宅の再現を図りながら居室づくりを行い居心地の良い環境設定を工夫している。	居室にはエアコン、ベッド、三段チェスト、洗面台が備え付けられている。利用者は使い慣れたテレビやテーブル、イスなどを持ち込み、動線を確保して使いやすい配置にしている。ベッドからの転倒防止の観点から、畳を利用する利用者もいる。衣替えは家族が定期的に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はほとんどがバリアフリーとなっているほかほとんどの場所には手すりが設置されており手すりがない箇所は家具などをレイアウトし手すり代わりにしている。		